

HONMAN

図書館ボランティア「本探」が、旬の図書館情報を

お知らせします☆
 (資料の情報が) いっぱい!
 2013年 10月号 (第41号)

HONMAN PIECES

今月のピースのテーマは、「原作になった本!」
 映画化、漫画化、アニメ化まで。

スーモのオスス× 9/13.6/A 綾辻行人

『Another』

最後まで展開がわからないホラーミステリー

濃画化!
アニメ化!
映画化!

玉珠のオスス× 9/13.6/A 有川浩

『空飛ぶ広報室』

新垣結衣・綾野剛主演ドラマと原作イラストが連なる。続編の噂も!!

ドラマ化!

伊上のオスス× 9/13.6/K-1 貴志 祐介

『悪の教典』

生徒に慕われる高校教師で、おとなげなく、自身の目的のためなら殺人もいとわない狂気の男が繰り広げる凶行の数々。

映画化!

びわこのオスス× 9/13.6/H 皇野 智幸

『俺 俺』

「みんな俺になつたら確実に楽しいんだけど…」

映画化!

隆のオスス× 9/13.6/N 夏川 草介

『神様のカルテ』

地域病院に勤務する内科医が、ある患者に会い、色んな悩みや困難と向き合っていく。

映画化!

傘のオスス× 9/33.7/F S.フットボール

『グレート・ギャツビー』

金持ちの生涯。謎ばかり。

映画化!

かたごちのオスス× 9/13.6/Y-[1] 山田 宗樹

『嫌われ松子の一生』

元教師の「松子」の転落人生を描いた物語。彼女は、7人の子供を産み、求めただけだった。

映画化!
ドラマ化!
舞台化!

きいのオスス× 9/13.6/H-[1] 東川 篤哉

『謎解きはティーターのあとで』

正真正正のお嬢様探偵! 妻が殺人と数々の事件に巻き込まれる。

ドラマ化!
映画化!

麻子のオスス× 9/13.6/S 重松 清

『その日のまえに』

死期が迫る人とその家族が、「その日」を迎えるまでのかけがえのない物語。

映画化!

七海のオスス× 9/13.6/S 桜島 一樹

『伏魔作・里見八犬伝』

如痴師・浪路は、兄に誘われ、伏魔という異物の者を狩りに江戸にやってきて…

アニメ化!
映画化!

ハルのオスス× 9/13.6/I 伊坂 幸太郎

『オー!ファーザー』

父親が4人いる!? そんな高校生が、父と事件に遭遇する。

映画化!

咲季のオスス× 9/13.6/T 筒井 康隆

『七瀬 ふたたび』

人の心を読める超能力者のお話。

ドラマ化!

鶏のオスス× 9/13.6/I 伊坂 幸太郎

『死神の精度』

雨男の死神、千葉。人間の死には興味がない。死神が対象の人間と不可逆時間。

アニメ化!
映画化!
舞台化!

きょうのオスス× 9/33/D-3 ジャン・ドゥル

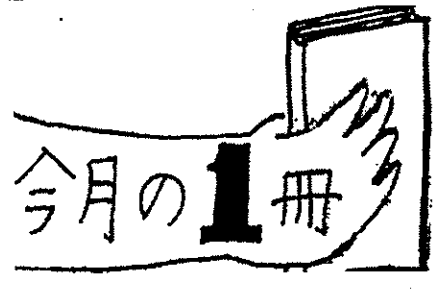
『緋色の石研究』

世界一有名な天才探偵と相棒の医師の2人の話はこの日から始まる。

ドラマ化!

原作に『おた』本の中から、X-バー オスス×の4冊を紹介。映画やドラマ、アニメなど原作を比較して読むのもおもしろいですよ!

『流星ワゴン』 重松清 913.6/5

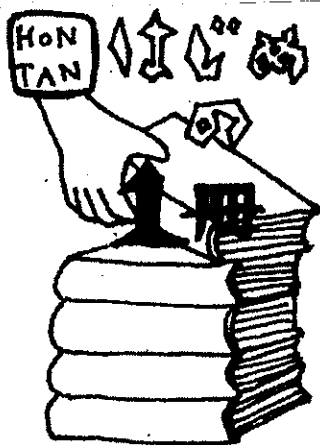


38歳・秋。その夜、僕は5年前に交通事故死した橋本親子の乗る不思議なワゴンに拾われた。そして、自分と同じ歳の、自分の父親に出逢った。時空を越えてワゴンがめぐる、人生の岐路になった場所への旅。

優しくして少し痛い、父と息子の話でした。大人なら、誰にもひとつかたつ思い当たる、ちいさな後悔。その後悔がバリエーション豊富で、いつの間にか大きく道を違ってしまうのかもしれない。そのときは、自分なりに最善を尽くしたつもりだったのに。この小説は、そんな後悔を「やり直して」いく物語なのです。

毒は外泊ばかりで家に寄り付かず、中学生の一人息子は不登校状態。家庭内暴力は酷くなる一方。永田一雄は、この先の人生に対する希望は一切なく、もう死んでもいいと考えていたところ、一台のワゴン車に奪われます。ワゴンに乗って夜のドライブを続け、やがて朝がくると、一雄は人生の分岐点、つまり、後悔の残る過去の言動にたどりつくことにはなるのですが、そこでは何故か、一雄と同じ年である38歳の父親に出会います。幼い自分しか知らない父との対面。嫌いになるはずの父親との交流、そして、5年前に死んでしまった橋本親子の絆にかれて、やがて一雄は、生きる意欲を取り戻していきます。どんな人でも感動できる親子のストーリーです。

〈伊え上〉



『下町ロケット』 池井戸潤 913.6/エ

『ダ・ヴィンチ』 10月号



やらねえか？
...そうです、倍返しです。
今誌題名のドラマ「半沢直樹」シリーズの、原作者の池井戸潤さん。ドラマを見て、池井戸さんの作品を読んでみようと思った方へ、『下町ロケット』をおすすめしたいです。

特集は、2013年に本屋大賞に選ばれた、『海賊とよばれた男』、『永遠の0』の著者、百田尚樹についてです。

永田尚樹会長の稲盛和夫と百田尚樹の対談では、「働く」ということをテーマに語り合っています。仕事で成功している人たちは、運に恵まれており、節目節目に自分を助けてくれる人に出会っている。戦後の日本が復興するために、自分の欲を抑え、日本のためにと死に物狂いで働いた人々についてなど、働くとはどういうことなのか、という学生に読んでもらいたい対談です。

また、『海賊とよばれた男』の魅力が戦後での日本と関連付けながらまとめられており、この小説を讀んだことのない人でも楽しめる内容になっています。

〈七〇末〉

あつじは、中小企業である個製作所が、大企業に翻弄されたり、資金問題に直面したりなど、さまざまな問題にぶつかりながらも、夢のために、真摯にロケット部品製作に力を注ぎ、固執しています。ロケットは無事に打ち上がるのか？というものです。個製作所がその敵たちを、金うたせりやで、せいかんせいかんと言わせて、夢に向かって突き進んでいくのが爽快です。

細社長が、自分の部下に、仕事をあるものに例えて、仕事の本質を説くところがあるのですが、その言葉は、きっと、あなたに届くはずですよ。私は読んだ時、思わず、手帳の空いているところにこの言葉を書き留めておきました。

登場人物はおじさんばかりですが、淡くて、格好いい愛せるおじさん達ですよ。池井戸作品は「働く人」が主人公で、とにかく「働く」ということについて熱く書かれているものが多く、仕事について考えたときに、読んでみるのもおすすめです。

〈あんこ〉



『糸の月夜』 778.77/k

先日、長編アキ映画の製作からの引退を表明した宮崎駿監督。宮崎監督の代表作の一つである、『糸の月夜』を紹介しよう。

舞台と設定は、世界恐慌後のイタリア。賞金稼ぎの元人間、現豚のポレロ。真つ直なサボイア。自分の手足のように扱い、不敵な笑みを浮かべながら、画面せまさと飛び回ります。

この映画を見たら、映画につけられた「カウチヒーロー」より、理解できます。「カウチヒーロー」とは、こういうことさ。

〈きょう〉